

「第2回 和歌山市こども暗唱大会」を開催

和歌山城南ロータリークラブ



平成20年2月3日(日)、和歌山市の市民会館において、和歌山城南ロータリークラブの主催により、昨年に引き続き、小・中学校生を対象とし、第二回和歌山市子供暗唱大会を開催しました。今回は、和歌山市教育委員会の協力も得ながら、公立学校に止まらず私立学校も参加対象とし、和歌山市内の全小学生・中学生に呼びかけ、大会を開催しました。

この大会を開催する趣旨は、次代を担う子供達を社会全体で豊かに育てていこう、そのためにロータリアンも力を貸そうということにあります。子供達が、優れた名文や詩を暗唱し朗読することにより、その名文や詩に含まれた豊かな情感や生命に対する愛情を、自身の精神の中に育ててもらおうとの試みです。

今年は、昨年の66組174人の参加から、109組418人の参加を得ることとなりました。参加者数が増え、昨年の会場では開催が難しくなり、今年は700名収容の和歌山市民会館のホールで開催致しました。それでも、会場は、通路上の階段に座る人や立ち見者、会場に入場できない人まで出るなど、熱気溢れる大会となりました。

そして、「ここはア…フ…リ…カ…のサバンナ……」と、子供達の暗唱が響き渡り、まるでアフリカにいるようなボディアクションを伴い、暗唱大会が始まりました。暗唱は、個人もあり、グループによる群読もありで行われました。クラスの皆で考えて、クラスの全員が発表したり、クラスの代表が発表をするなど、各学校が創意・工夫をこらしてくれました。そして、クラスで応援し先生も応援、お父さんお母さんや家族も応援していただきました。会場では、一体となったクラスや家族の皆が拍手を贈り、生き生きとした活気あふれるアクティブな発表会となりました。

大会の表彰は、小中学校別に16の賞と二つの最優秀賞を設けています。すばらしい発表に、甲乙付けがたく、審査員の皆さんを悩ますこととなりました。結果は、小学生の部の最

優秀賞に、個人発表中の「本の一節・名文部門」より、小学二年生の“はち公物語”（忠犬はち公の話）の発表が選ばれました。語り口調にすばらしい情感があり、聴いている人が分かっている内容なのに、感情がこみ上げホロっとさせられる発表でした。また、中学生の部の最優秀賞には、群読部門より、三人による“西遊記”が選ばれました。テンポの速さと息の合ったタイミングの発表には、そのすばらしい出来に感動させられると共に、三人の仲の良さ、練習量のすごさが想像できる発表でした。なお、この最優秀賞の受賞者は、当クラブの20周年記念例会の場においても、この発表を再演していただくこととなっています。



発表を通じ、優れた名文の暗唱が、国語の基礎学力とも云うべき「読む」「話す」「聞く」の能力の向上に、大きく寄与することがよくわかりました。また、大会に備え繰り返し練習をすることにより、学校や家庭における先生やクラスの皆・家族とのコミュニケーションが図れ、子供達の豊かな人間性の形成に資するものであることも改めて認識することができました。主催者として、この大会の有意義性を多いに認識させられた次第です。

和歌山城南ロータリークラブでは、第二回子供暗唱大会の大成功の後、この大会を今後とも継続事業として毎年開催し続けることを確認致しました。

以上

